

豊浦観光情報局

2月28日～3月2日にかけて低気圧が日本列島を横断し、国道の通行止めや交通機関の運休、停電など本町だけでなく各地で被害が発生しました。こうした災害は旅先で遭遇する場合があります。どのように対応したらよいかを考える機会になりました。

さて、去る2月15日18時から、とわにーにおきまして、豊浦町観光地域づくりフォーラムを開催しました。当日は町民の皆さんに加え近隣市町の関係者を合わせると約100名の方にご来場いただきました。基調講演では（一社）田辺市熊野ツーリズムビューローの多田会長、小川事務局長から、熊野古道の世界遺産登録を契機に、1日100台もの観光バスが訪れ、その苦い経験を糧として、地域のレベルアップを目的とした取り組みを繰り返し行ったところ、現在で

は観光客や観光事業者だけでなく、地域に暮らす住民の満足にもつながっており、それこそがDMOの役割とのお話がありました。豊浦町もこの精神を忘れずにDMOの設立を推進していきますので、町民の皆さんのご理解、ご協力についてよろしくお願いいたします。



▲基調講演を行う多田会長

☎ 83-1422 地方創生推進室

町長からのそよ風だより 第44回

町長から身近な話題や皆さんへのメッセージを紹介します。

「ひな祭り」を過ぎると厳しかった寒さも峠を越え、日一日と日照時間が長くなっている今日この頃、町民の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

2月14日に開催されました議会2月会議において、「副町長の選任について」と「町長等の給与に関する条例の一部改正について」等を提案し、いずれも可決させていただきました。副町長につきましては、1期4年間、行政事務に精通している強みを活かし、行政事務事業の検討・処理や政策の企画立案に取り組み、町長の補佐役として手腕を発揮してきました現副町長の小川英紀氏を適任者としたものであり、条例の一部改正につきましては、職員の不適切な事務処理があったことから、町長・副町長の給与、平成30年3月分10%減額するものです。町民の皆様には、あらためてご心配・ご迷惑をおかけしましたことに、心よりお詫び申し上げます。

2月15日と27日、以前からお話していました「観光地域づくり協議会」の豊浦版DMO設立へ向けてのフォーラム（参加者約100名）と再生可能エネルギーのフォーラム（参加者約70名）を開催し、その必要性和事業についての理解を深めることができたものと思っております。DMOは、「小さな町の新たな挑戦～0からの出発」をコンセプトに、早ければ7月1日に、遅くとも10月1日の設立を目指しており、豊浦町ならではの魅力ある体験プログラムや滞在モデルプランをできるところから旅行商品化を図り、新たな

産業・雇用の創出など、地域活性化につなげていきたいと考えております。

再生可能エネルギーフォーラムにつきましては、現在進めている町のバイオガスプラント整備や民間の太陽光発電事業の説明や講演会、パネルディスカッションを行いました。当町出身で東北工業大学客員研究員の矢野篤男氏が「未来へのチャンスとチャレンジ」と題して講演し、温暖化が進むなかでの田舎が町民一体となって再生可能エネルギーと低炭素社会を支える必要性を説明しました。

北大の岩淵教授は、豊浦町には副産物として出てくる液肥となる消化液の需要があることのメリットと田舎でのエネルギー分散型の自立社会を構築できる環境にあるとのご意見をいただきました。また、町内の酪農家と苺農家さんからも、液肥としての消化液が活用できることへの期待の大きさを実感することができました。

このような事を踏まえ、将来の豊浦町のあるべき姿としての核としてのDMO設立やバイオガスプラント整備を着実に進め、持続可能なまちづくりの実現に向けて取り組んでまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力を願うところであります。

終わりに、雪融けも進み滑りやすくなりますので、車両のスリップ事故や転倒事故に十分注意されますようお願い申し上げます。